

平成17年10月7日

報道機関各位

日本赤十字社企画広報室

献血者の転倒事故について

平成17年9月26日、献血ルームにおいて成分献血をされた献血者が、採血終了後にトイレに行き、転倒して頭部を強打したと思われる事故が発生し、献血されたご本人が搬送先の病院で10月6日、お亡くなりになりました。

献血による血管迷走神経反応(VVR)が発生した可能性が疑われることから、改めて再発防止策を徹底することといたします。

1. 経緯

平成17年9月26日の午前中に東京都内の献血ルーム（ビルの一室を借用）に30歳代の男性が来所され、成分献血を行いました。

採血終了後採血ベッドで休憩した後、献血ルームと同じ階にあるビル共用のトイレに行かれました。

数分後、献血ルームに一般の方から「トイレで人が倒れている」との知らせがあり、献血ルームの職員が現場に急行し、倒れている方が献血者ご本人であることを確認しました。

救急車で病院に搬送され、頭部外傷により緊急手術を受けて入院加療されていましたが、10月6日にお亡くなりになりました。

2. 今後の対応

転倒の原因は、現時点において判明していませんが、採血後に血管迷走神経反応(VVR)が発生し転倒された可能性が疑われることから、以下のとおり再発防止策を図るとともに全国の血液センターに周知します。

(1)献血会場における対応

- ① 既に運用している献血者向け説明用資料「お願い！」等による対応手順の徹底を図る。
- ② 採血終了直後の献血者が尿意を催し、トイレに行きたい旨の意思表示がなされた場合は十分な観察を行い、安全性を確保する。